

164
951

眞
教
作
証
辯

020781-000-3

特17-437

眞教作証辯

瀧川 三代太郎 / 編

M27

ABI-0607



眞教作証辯

現今世の中は教育の學隆りあれば人々佛教神道等を信する者日々

少く成行くゆり然るは人間は是非一の宗教を奉せねばあらぬ事

あるべし凡そ大の此世は生存するは唯目的ありて僅に衣食住の爲のみ

に生涯出精苦勞を爲すは非ず是外に大に勝りたる境に達すべき眞の

大目的あるは由るなりさて人は原より此世を終れば即て其靈魂の後

世に入りて終りなく生活することを堅く信して眞正の宗教は耶穌教

を除くの外なきの道理も能く辨へ知りて後に各進みて奉教者とな

る然りもから多くは充分研究せざる故或は時として勇進の力乏し

く半途に疑惑を起して遂に耶穌傳來の眞正なる教の蔭に住まず却て

人智を以て妄作をたる偽耶穌教即ち謂はゆる新教を全く眞正の宗教

と誤り思ひたる者甚だ多きをかし此に就きて第一研究すべき條項中



最も肝要の二三題を掲擧して説示せんとすさて今日日本へ行はれたる
 耶穌教の中は新教と天主教との二つの別ありと云ふことを人々皆
 能く知りたりかくて新教信者の天主教を批難して舊教と云ふめ
 る故に此二つの者の名稱は因りて一考を爲さざる可らず抑新教は近
 代に始まる所あり舊教の極めて遠き昔より耶穌基督の眞傳を今日ま
 て依然として奉し來る者と同異あること甚だ明らかあり如何とされ
 ば眞正の宗教は是れ人間の離る可らざる道なれば人の世あらん限り
 は始終同一にて更なる變易あるべきことあらん又原より人間は由
 りて定めたる者あらねば人の想像に従りて變更し若くは更なる造成
 するを得る能はざること亦自ら明ならずや因りて眞正なる教即ち眞
 の宗教は原始より今も傳へ來りける事實を粗証せざる可らず太初
 ありて神は人間に其罪を償ふる人間の功力は依る可らしめ吾人が助

もを得へき爲め救世主を降さんことを約束されてしかば人間は其天
 啓を深く信じ甚だ祈りて犠牲を捧げ後日降臨する所の救世主の功力
 は靠らんことを希ひたりし是誠は眞正の道と爲す所ありけるを後世
 は至りて遂に人間に其道を悞れりければ猶神は其道を滅盡せさらし
 めじとて「モイゼス」聖人を太古の聖の子孫ある「イスラエル」人民は遣は
 され尤も嚴重なる規則を觸れ知らせ彼人民は眞正なる道を確乎と遵
 守せしめ其他豫言者をも屢遣はされ前に立られたりし規則を記憶さ
 せ後降るべき救世主を希望せしめ且豫め救世主の履歴をも委しく
 示されたりしさて後千九百年前救世主始めて降臨ありて人間を救
 ひ并に後來守るべき眞正の道をも教示せられたりき當時救世主耶穌
 基督正しく神の子あるを信じ其教を奉したりし弟子等より次第
 は久しく世を経て傳はり來りて少しも移易することなきは即ち天主

公教ありけりさて新教は僅四百年前の時代より在りて耶穌基利斯督の正統なる天主教と異論を張り別と造成したる所にして全く人為の偽教と係る抑新教は何れの所より起り來るを考ふるも耶穌基利斯督在世の時より人為を以て教理を造成することは未だ嘗てあらざる所あり然るも彼新教の祖は其教理を造成し又變更する權をは何れより許し與へられつるか神は昔多くの法を以て豫言者、託し先祖、告げ給ひしか此末の日には其御子に託して吾等も告げ給ひたり（希伯來書第一一章節）しよあらすやさて後耶穌基利斯督の外も人間を教誨すへき者はあらざること知るへきあり如何んそ昔より傳へ來にける耶穌基利斯督正統の異教を捨て、晚今人為偽造の新教の異説を取るの理あらんや新教者之も答ふるも較もすれば天主教の年を経る久しきまゝ、誤謬を生したるも因りて「ルーテル」は其誤謬を正さんとして前傳を棄て純ら

新教を稱ふ聖書も基つける者を造成したる所ありと云はんとす是れ當然の言の如く聞ゆれと却て其論據とする所は忽ち一言の下も敗られぬへし曾て耶穌基利斯督其自身の代りも萬世萬國に眞の道を傳へしむへき弟子等も對し爾往きて萬民を招きて徒と爲し父と子と聖靈との名も於て之も洗禮を施し之も教へて我か凡そ爾も命する所の者を守らしめよ視よ哉我常も爾曹を偕に世の末も至らん（馬太傳第十九章第二十節）と又聖靈爾も臨む爾將も能を受け我か爲も證を作して以て地の極も至らんとす（使徒行傳第八節）と仰せられたるもあらすや若し果して耶穌基利斯督其身も代りて人を誨へしむる爲又其証人ある弟子等と始終共も居るとあらは如何んそ此弟子等の誤謬に陷るの理あらんや耶穌基利斯督の御守護を蒙むる証人の何れの時も於て何もして偽りと述べ傳ふると有る可んや其故も天主教の基利斯督の御約束を篤く信

して彼が其弟子等と始終共ニ在りと云ふを少しも疑はず固より其弟子等の決して誤謬ニ陥ること無しと確信せざる可らざる所以あり然るを「ルーテル」は此の御約束のあるをも顧み念はずして反りて其弟子等を誤謬ニ陥りたると云ふは果して何の信すへき者あるか

再ニ又新教者が天主教の間違ひと思へらん所を精しく研究するニ天主教に少しも誤謬ヲし今茲ニは彼が主張する所の説を細大洩さず辯駁せんとすれば一小冊子の能く盡すを得へきニあらず如何とされは新教者の中ニは僅ニ二三ヶ條ニ附きて天主教との異りたる「アングリカン」派監督派の如き者又基利斯督の神たることをさへ信ぜざる昔の「ソッソアン」派或ハ今の「ウニテリアン」及ヒ自由新教等の如き者ある故あり中ニ就きて新教の外の宗派ハ「ウニテリアン」を類ニ駁撃して其自分と同

種類ニあらずと云ふは何ニも無理ある譯ニて謂ゆる五十歩を以て百歩を笑ふ類と謂ふべし蓋其説を爲す人ハ凡て神學教師牧師ニ多し（後章一節を見よ）「ウニテリアン」の如きハ固より宗教と稱ふへき者あらねは之ニ比して天主教を異りたる所を究論せんニは必先天主教の證據を擧げて一々論辯せざるを得ず故ニ始らく之を描くへしさて第一天主教ニ誤謬ありと云ふニ就きて説示さん仮りニ天主教ニ誤謬ありと爲すニも新教の祖師は如何して其誤謬を發見したるかと問へハ彼必聖書ニ由りて發見し得たりと答ふへし次ニ又其聖書は何れより傳受したると問ふニは彼必之を天主教より傳受せりと謂ニざるを得ず若し果して天主教を既ニ誤謬ニ沈淪したる者と爲すニあらは彼敢て其誤謬ニ沈淪したる天主教の用ふる所の聖書を真正ある者ありとして信するニ及はざるへき等ニあらずや是の如き誤謬の信仰即ち真正ある聖書ニ符

合せざる信仰を抱持する人又如何して其聖書をも棄てざりしや但彼
 其用ふ所の聖書も於て多少變更改作して自家の妄信を混記せざる
 を免れず其實の昔年活版の業未だ起らざりしよ因て書物甚だ少く
 従て讀書を能する人も至りて僅少ある時代あれば今日とは相違し種
 々記入されて偽り作りたる書籍又少あからずとす若し天主教を指し
 て誤謬を沈みたる者と爲るからは其誤謬の内よて只聖書のみ之汚さ
 れずして傳はり來れりとするに誠を以て信じ難し又若し神の聖書
 をのみ守護して偽説多き中よても一も之を聖書中よ混入する勿らし
 めたりと云は、何ぞ唯其書物のみ守りて數世紀の間人間をは妄信よ
 沈淪せしむることを許し玉へる若かず早く人間の妄信を禁遏して真
 正の道を脱離せざる方法を立て玉ふの善からんよ縦し此の如くあら
 は神の唯聖書のみ保護すれど人間の正道を離れ地獄に陥ることを厭

はざる者と云はざるを得可んや「ルuter」の元より知識ある者よて
 此論難を免るゝ能はずと思ひたりし故天主教會よてハ正當あらざる
 聖書をは妄信したりと云ひて聖雅各白書簡希伯來書簡黙思錄等を始
 めとして福音書中よ於て刪去する所多し(指第2の添書を見よ)然るよ是れ一の
 論難を逃れて又一の論難よ遣ふの爲のみ蓋其弟子等は反りて此書を
 眞正なりと云ひて復た聖書中よ挿入せり斯の如くあれば如何して「ル
 ーテル」の眞正ある聖書を棄て、獨自ら其誠を得て天主教の誤謬なる
 所を發見し耶穌基利斯督の正當ある教理を識認したる因て其概畧を
 擧ぐるよ今日の新教者の言の如く彼其除却したる章ハ全く是れ神の
 言語ありしとすれば「ルーテル」は極めて教理よ通曉せざる者よて神の
 使者にあらざり且必其誠を得ざる者あることを知るへし之よ因て推すよ
 新教ハ其源既よ誤りて神の言をさへ善く會得せず天主教こそ實よ其

證を會得し大に誠確ありと認めざる可らず若し其章は果して偽りありと強論せば今日現に其偽りを誤信する新教を何と謂ふへけんや前より陳ふる「ルーテル」の神の使者ならずと云ふ其證左甚た多し今茲に其二三を摘舉せん或人來りて己か神の啓示を受け人間の信仰を正さんと陳ふるも到底信するに足らず必人間の力に及はざる神徳の證即ち謂はゆる奇跡或は豫言を以て自家より神より遣はされたる証左を舉げざるを得ず(后章第三の添書を見よ)「ルーテル」來り我は神の啓示ありて天主教の誤謬を正し人間に真正の宗教を教ふる者ありと云ふとも固より奇跡等は成す能はず只豫言のみ爲たり其豫言は一ヶ年若くは二ヶ年の内は羅馬教法滅亡し悉く其權を失ふあらんと公言し且此を書に著はしたりしも今日其現状を見るに羅馬教法は始終相續きて彼か豫言の全く虚偽あること暗夜に燈火を見るよりも猶明らかあり又「ルーテル」の

正しく神の啓示を受けざるを示さん「ルーテル」は天主教の宣教師あるのみならず行者よてありける宣教師よまれ行者よまれ生涯獨身の誓を立てざるを得ず故に彼此の先きよ立てたりし誓を破り加之行者よして同じく誓を立てたる「カタリナホン」を千五百二十五年四月十四日を以て娶りたり神よ立てたる誓を破るは大罪なり奚んぞ大罪を犯したる人を以て他人の誤謬を正し眞道に引かしむるの理あらん因て彼の弟子も亦此罪を蔭蔽せん爲す多く辨解を用ひて云ふ生涯獨身を守るとの誓を立る如きは原より神の命に反して人類の性質に悖戻す因て該誓に從はざるを還りて善と爲すと若し果して此を惡しきことよさらは何ぞ耶穌基利斯督は終生獨身を守り玉ひしそ且他の弟子等の事は姑らく措きて新教よ於て尤も尊敬する所の保祿宗徒は亦獨身よて終る又信者よ對して爾我よ書する所の事よ至りて男女よ近かさ

る、善と爲す、惟邪淫を免る、夫各其妻を有つ可く、女各其夫を有つ
 へし(七章一節)然る、我此を言ふは、乃ち許す所あり命する所、非
 さる也我願はく、衆人皆我如く然らんを(七章六節)と陳へられたり既に
 基利斯督の仰せに人皆此の言を納る、能はず惟稟賦の者之を能せん
 蓋闡者(男根を切斷し)母胎より生して然るあり闡者人に闡せらるゝあ
 り闡者天國の爲にして自ら闡するあり此言能く之を納るゝ者は宜し
 い之を納るへし(馬太傳第十九章)と此の御言葉を考ふれば獨身を守る
 は決して悪き事、非す斯る善き事の誓を守り遂げずして之を破るは
 重罪と認めざるを得ず然るゝ「ルーテル」の此の善き誓を破りたる者な
 るゝ因て大罪人あること甚た明白あり何ぞ神の格別の啓示を受けて
 人間の誤謬を正すへき者と爲すを得へけんや「ルーテル」の如きは假
 獨身の誓を破りて自ら婚姻を爲しけること固より其婚姻を貴ぶ者の

如しさて又二人の婦女と有つことを「ヘス國ラグラフ」耳曼の事
 「」書簡を遺して許せしこと此の如き耶穌教に於て肝要なる條にし
 て聖書も明らかと記したる所を破れる者曷ぞ神の此に啓示を爲す
 へきの理あらんや是証者を待すして知るへきあり其外陳ふへき事項
 夥多ありと雖歴史に就きて之を調ふれば新教を誹謗すへき論点勝つ
 て數ふへからざる所にして悉皆記する能はざるあり特は彼か有る所
 の尤甚しき事實に至りては其証左を挙げされは人々肯て信せざるへ
 し然るに固より人の惡を顯はすは敢て欲せざる所ある故惟簡略且
 彼の面目を闡せざる者にして暗記したる所を僅に記し此書の初め
 云へる如く新教の誤謬且起元を知らざる者の研究すへき條項二三を
 指示するのみ願はくは是より各自能く研究して天主教と新教と
 の眞偽是非を確知して以て眞正なる公教を奉するあらは幸甚なり

「ハウルス」「ストラウス」「パウエル」等は基利斯督の神なることを駁して
 も「アイホルム」「フロンウエツテ」「パウエル」「ウエルハウゼン」等の聖
 書に書してある奇蹟は虚偽なりとして他の偽教の昔日の物語と同一
 よて人間よ於て成立たる偽りだと謂ふ人は皆新教の神學の教師或は
 牧師なり「パウルス」は千七百六十一年に生れ千八百五十一年よ死す「イ
 エナ」市の大學校よ於て神學教師ありし「ストラウス」は千八百八年に生
 れ千八百七十四年に死す「シラインゲルスハイム」市の牧師あり「ギーゼ
 レル」は千七百九十二年よ生れ千八百五十四年よ死す「ボン」市と「グナ
 ンゲ」市よ於て神學教師あり「パウエル」は千七百九十二年よ生れ千八百六
 十年に死す「ツピンゲ」市の大學校よて神學の教師あり「アイルム」は千
 七百五十二年よ生れ千八百二十七年よ死す「イエナ」市と「グナツゲ」市

の大學校よてヘブレエン教師あり「パウエル」は千七百五十二年よ生れ
 千八百六年よ死す「ハイデルベルゲル」市の大學校教師あり「フロンエッ
 テ」は千七百八十年に生れ千八百四十九年よ死す「ハイデルベルゲル」
 市と「ベルキン」府の大學校なり「ウエルハウゼン」「レウス」「デリツレ」
 「ウエルハウゼン」は「マルブル」市大學校の教師なり「クエネン」は「レイ
 デ」市の大學校教師あり「コゲレル」は佛國「パリヌ」よて暫時牧師と爲れ

第二添書

「ルーテル」は舊約聖書中數書を削除したり今に至りて新教に用ふる聖書は其書を記載せず然るは是は舊約の事あれば今此の議論は於て關係少るし聖雅各白書簡は助けを得るは信仰のみよては足らぬ故善行の必用ありと云ふ事をは明らかと記されたるは「ルーテル」は其反對ある説を爲したるは依りて此書簡をは輕蔑して舊文即ち火に投すへき書簡なりと云ひおしたり

第三添書

「ルーテル」の弟子の中「ルーテル」と異なりし説を立て種々の宗派を興す者ありけるか「ルーテル」は之を激して其人々は誰より福音を説く權を得たると若し神の使者あらは其遣はされたる証據即ち奇跡を顯はすへしと屢言へりしか其と同じく天主教より「ルーテル」に對して其能く証據を擧げよと曰はざるを得ざるあり

明治廿七年九月七日印刷
明治廿七年九月十日發行

編輯印刷
兼發行者

日本橋區新和泉町一番地
瀧川三代太郎

2539

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77

11/11/77